

第1章 国富町の特性を活かす

豊かな自然環境やはぐくまれてきた文化、築かれてきた生活基盤や産業基盤などの特性を活用した個性のあるまちづくりが求められています。

第1節 恵まれた自然環境・歴史文化を活かす

本町は、田園と森林を縫って12本の河川が流れ、緑や水資源などの豊かな自然美に恵まれています。また、中世の荘園制を経て江戸時代は天領となり、諸県地方の商都として栄え、その名残が、本庄稻荷神社の勇壮な夏祭りや歌舞伎人形として今に伝えられています。

このような歴史的背景から、古墳群、神社仏閣、木造・石造の文化財などをはじめ、地区に伝わる郷土芸能や法華嶽薬師寺にまつわる「和泉式部伝説」などの歴史文化があります。



第2節 豊かな農の大地を活かす

本町の大地には、水田1,733ha、畑769haの優良農地が展開し、恵まれた営農環境にあります。また、農の大地は食糧を生産することはもとより、環境保全機能を備えており、公共財としてなくてはならないものとなっています。

さらに、農を生活の糧として暮らす人、農を生活の中で楽しみとする人や美しい緑と実りの中に快適な暮らしを見出す人など、多様化する価値観の中で農の大地は今後も貴重な存在になっていくと思われまます。



第3節 住みよい生活環境を活かす

本町は、県都宮崎市から西方に車で30分の距離にあり、位置的な利便性に恵まれています。宮崎港まで30分、東九州自動車道宮崎西インターチェンジまで15分という立地環境にあります。

町内を走る道路は、主要県道の整備が進み、町道においても改良率83.4%、舗装率98.4%と交通の利便性が向上しています。

また、田園や森林などの豊かな緑に包まれた住宅地、恵まれた水資源による安全な飲料水はほぼ町全域にゆきわたっており、公共下水道整備も進んでいます。

さらに、災害に強い安全なまちづくりを進めており、快適な住空間を提供しています。



第4節 先駆的な健康・福祉づくりを活かす

本町は、昭和54年度から総合人間ドック事業にいち早く着手し、病気の早期発見・早期治療、健康・栄養指導などに努めてきました。

平成17年度、従来の総合健診事業と一本化し、「新・総合健診事業」として継続して実施しています。

健康づくりの町として、保健センターを核に「健康で明るく活力に満ちた人生」をめざした町民運動を展開しています。

また、昭和50年代から在宅福祉を推進するため、町独自の介護手当制度を設け、近年では、民間の老人ホーム・通所や訪問のサービス事業所が充実する中、総合福祉センターを核とし、地域のネットワークを十分に活用した福祉づくりが展開されています。



第5節 住民の自発的な取組を活かす

本町では、自分たちが住むまちを元気にしていこうという住民活動が芽生え、その機運が広がっています。

その中でも、「真冬のたなばた」は冬の風物詩として町民に親しまれ、野外ライブ「ホッケ・ストック」は町内外からの若者を集め、法華嶽公園で開催される「にじます釣り魚つかみ取り大会」は自然とのふれあいの中でリフレッシュ感を提供しています。

また、農家の女性を中心とする特産品加工販売や新たな住民活動の動きとして、地域の自発的な団体活動を応援する「くにとみ元気づくり交付金」の対象は、平成18年から22年までに、13団体を数えています。

さらに、法華嶽公園内の施設に、民間事業者の宿泊施設が相次いでオープンするなど、民間活力参入による町の活性化が期待されています。

このようなまちづくり活動が自治意識を高め、ボランティア、NPOなどの住民参加のまちづくりへ発展していくことが期待されます。

